

市況予想レンジ

項目	時期	直近3ヵ月実績		
	5月~7月	2月	3月	4月
長期国債10年物(%)	1.20 ~1.80	1.355 ~1.500	1.215 ~1.390	1.295 ~1.675
円ドル相場(円)	96 ~106	104.27 ~108.37	95.77 ~104.01	99.59 ~104.82
TOPIX(東証株価指数)(ポイント)	1,100 ~1,500	1,274.08 ~1,372.82	1,139.62 ~1,307.03	1,214.92 ~1,372.96

今後3ヵ月の市況見通しに月次の実績を記載しております。

当面の見通しと注目点

ファンダメンタルズ

(日本)

景気は以下の要因により、減速傾向を強める展開

所得環境の本格回復が難しい状況やガソリン高や一次産品値上げによる、家計の実質購買力低下。

米国サブプライム問題の長期化による消費、企業マインドの悪化。

これまで底堅かった外需も中国向け輸出に減速の兆し。生産も減速傾向。

・物価は、原油高などを背景に上昇に向かうものの、内需調整色の強い景気やデジタル分野の価格低下により、実質的な騰勢は微弱なものにとどまる見通し。

(米国)

景気は、住宅、消費中心に減速を強める

住宅部門は、高水準の在庫や融資基準の厳格化に伴う販売鈍化により、着工の持ち直しにはまだしばらく時間を要する。また、今後、サブプライムのARM(変動金利融資)の金利見直しが増えることにより、更なる差し押さえ等の増加から在庫が増加し、住宅価格の低下圧力となることが想定される。

家計部門では、サブプライム問題やそれに伴う信用収縮、ガソリン高、株価や住宅価格調整による逆資産効果などの要因が下押し圧力となることなどから、消費者マインドも低下基調。雇用は、各種の先行指標が一段の悪化を示唆しており、雇用者数は減少傾向が継続する見込み。可処分所得の伸びの鈍化から消費は減速傾向を強める。

企業部門においては、新興国の高成長、ドル安の持続を背景とする輸出の堅調により下支えされるものの、内需鈍化と企業マインドの悪化、銀行の貸出姿勢の厳格化や資金調達コストの増加から、これまで力強く伸びてきた非居住用建設投資や設備投資も減速傾向となる。

株 式

(日本)

やや軟調な推移

3月中旬以降、米国における信用収縮懸念が薄れサブプライム問題も最悪期を脱したとの見方から株価は急反発しているが、今後は実態経済への影響を見守る展開となる中、米国の景気下ぶれ懸念やこれまでの急反転への警戒感もあり、軟調な展開を予想する。バリュエーション面においても、08年度会社予想における5%程度の減益を前提とすれば、(TOPIX1350レベルでは)PER16倍程度となり割安感は薄れつつある。こうした中、外国人はじめ積極的な買い手も見出しにくいため上値は重い。

(米国)

軟調な推移

企業業績においては、新興国需要の下支えがあるものの、米国内の景気減速に伴う売上減少、原油を始めとする原材料価格の高騰が下押し要因となるほか、サブプライムローン問題により、M&A資金の調達がやや困難となっていることが業績の下ぶれリスクとして懸念される。

リセッション入りか懸念される景気に対する政策面での対応も、当局はこれまでの利下げや減税効果を見守る姿勢であり、期待された公的な資金の投入について当局は明確に否定しており、今後、新たな対策による一段の押し上げは期待しにくい状況。

債 券 ・ 為 替

(債券)

日本:長期金利は緩やかな低下方向

国内長期金利は、3月中旬以降、極端な海外金融不安の後退に伴う内外株高・米長期金利上昇の流れに乗じて上昇しているが、原油価格の高騰や住宅価格の低下による米国経済の減速、日銀が金利正常化路線を棚上げしたこと、等を踏まえれば、一段の金利上昇余地は小さく、流動性の強い米国金利の緩やかな低下につれ、再び低下傾向を予想する。

米国:長期金利は緩やかな低下方向

米国長期金利は、過度な信用不安の後退や政策効果への期待、インフレ圧力上昇の可能性から、昨年からの低下トレンドに変調が見られるものの、インフレはコアベースでは緩やかな需要を反映して落ち着いており、米景気の住宅市況の回復の遅れや内需の低迷の継続による下ぶれ懸念から、再び低下余地を探りにくい展開を予想する。

(為替)

円/ドルレートはやや円高傾向での推移

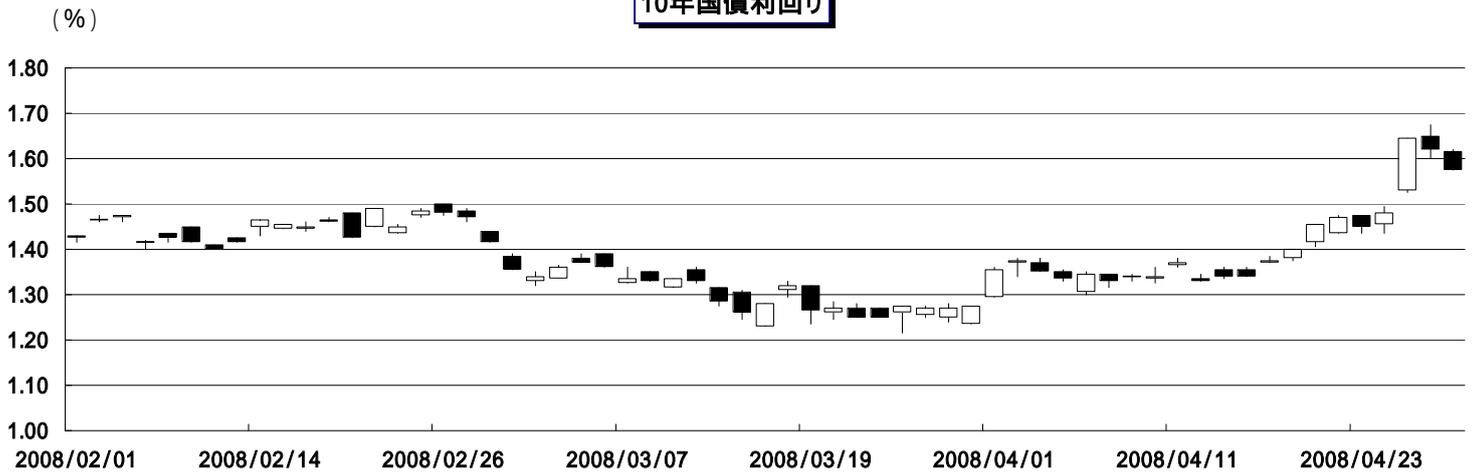
米国家計でバランスシート調整が本格化するなか、米国経済の減速傾向は継続し、再度、追加利下げ期待が高まりを受け、世界的なリスク回避的な動きや日米金利差の大幅な縮小を受けたわが国からの対外投資停滞を背景に、円高圧力が続く予想する。

もっとも、米国の追加利下げ余地が限られつつあることや国内景気の大減速リスクの高まりなど、積極的な円買い材料にも乏しく、円高進行の余地は限られる。

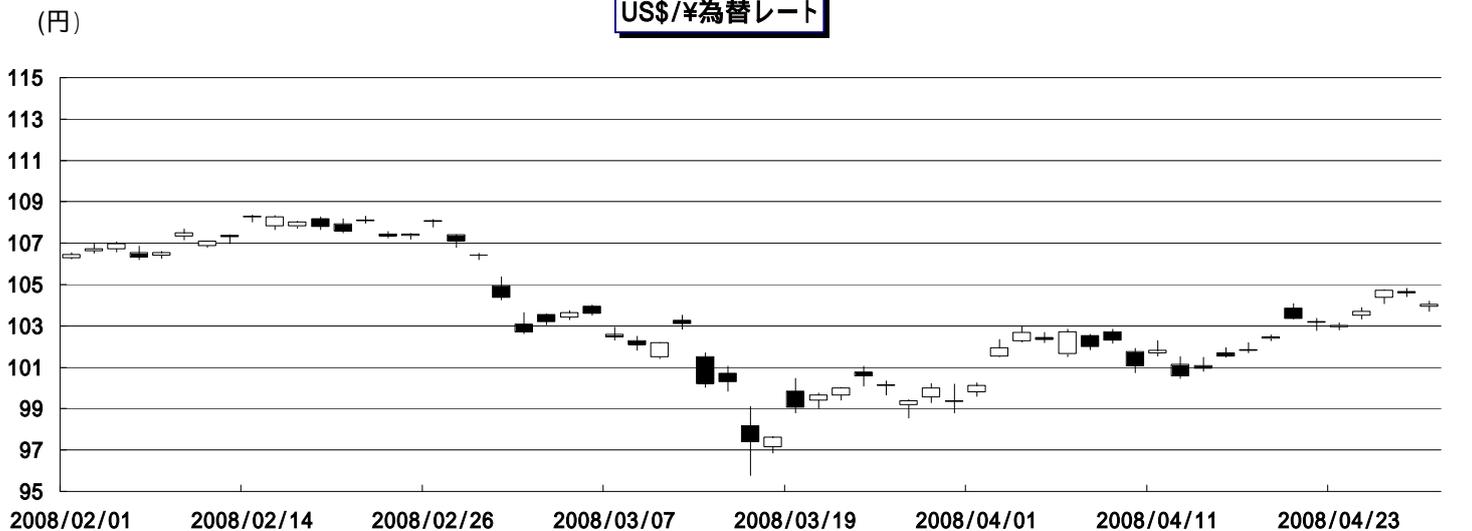
- ・当資料は情報の提供を目的としており、当資料により直接投資の勧誘をするものではありません。
- ・当資料は当社が信頼できるとされる情報に基づいて作成されていますが、その正確性、完全性を保証するものではありません。
- ・当資料に記載された意見などは、資料作成時点の当社の判断であり、今後、予告なしに変更されることがあります。
- ・投資に関する決定は、お客様御自身の判断でなさるようお願いいたします。

市況の推移

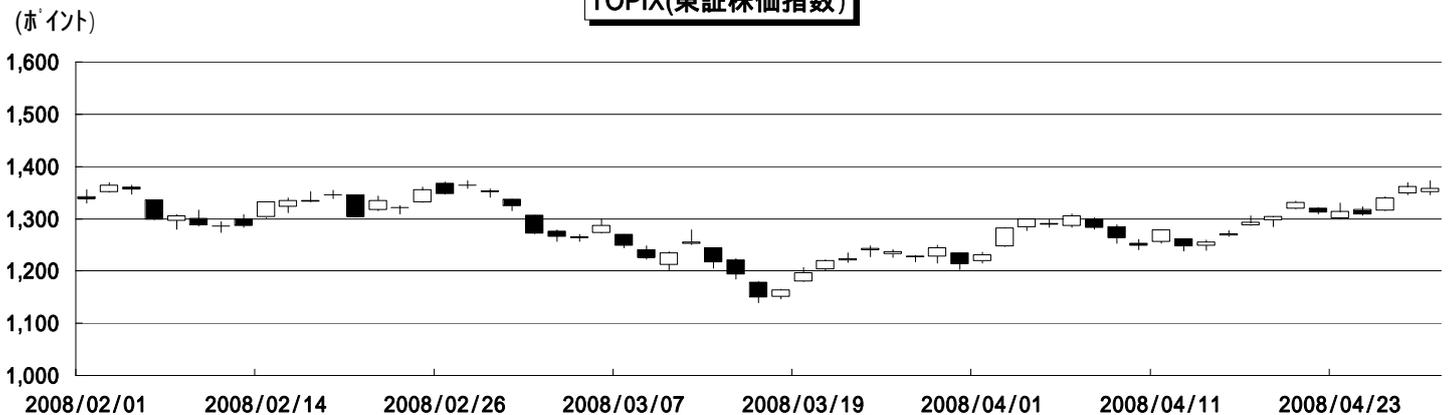
10年国債利回り



US\$/¥為替レート



TOPIX(東証株価指数)



出所: (株)東京証券取引所

- ・当資料は情報の提供を目的としており、当資料により直接投資の勧誘をするものではありません。
- ・当資料は当社が信頼できるとされる情報に基づいて作成されていますが、その正確性、完全性を保証するものではありません。
- ・当資料に記載された意見などは、資料作成時点の当社の判断であり、今後、予告なしに変更されることがあります。
- ・投資に関する決定は、お客様御自身の判断でなさるようお願いいたします。